

トルコの金融市場動向 Weekly Report

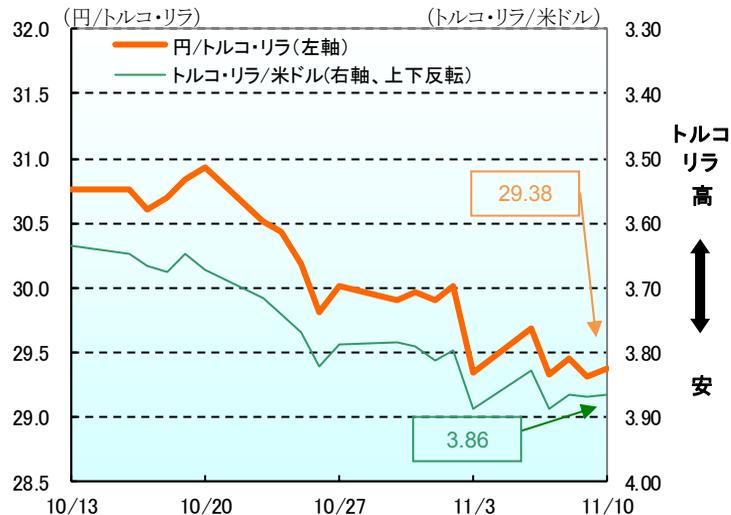
【2017年11月4日～2017年11月10日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドルで上昇、対円ではほぼ横ばいでの推移となりました。またトルコの2年国債金利は上昇しました。

10月からトルコと米国が互いにビザ(査証)の発給業務を停止していましたが、約1カ月ぶりに一部の発給業務が再開されました。またエルドゥラム首相は米国でペンス副大統領と会談し、両国の関係改善に向けて対話を進めていくことで一致したとのこと。トルコ金融市場では、ビザの発給業務が再開されたことやトルコ中央銀行が通貨安抑制策を発表したことなどを受けてトルコ・リラが堅調な推移となったものの、翌週に国債入札を控えていることもあり金利は上昇しました。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2017年10月13日～2017年11月10日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

今週は、9月の経常収支の発表が予定されています。またエルドアン大統領はロシアを訪れ、プーチン大統領と会談を行うほか、クウェートやカタールにも訪問する予定となっています。足元でトルコは、元はシリア情勢などで対立していたロシアやイランなどの中東諸国に接近し関係を強化しています。一方で欧米との関係悪化は懸念されるものの、直ちにトルコがNATO(北大西洋条約機構)の脱退や、EU(欧州連合)への加盟交渉を打ち切る可能性は低いと考えます。今後もトルコは自国のプレゼンスを高めるべく、欧米とロシアや中国などを天秤にかけながらしたたかな外交を続けると考えます。当面は諸外国との外交状況や中央銀行の通貨安抑制策をめぐる思惑が相場の材料になりやすいと予想します。

【トルコ 金利推移】

(2017年10月13日～2017年11月10日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>